

2018(平成30)年7月

習志野市男女共同参画社会づくり情報紙

第42号

# きら *Kira Kira* きら

特集 “おとう飯(はん)”でつながろう!!



最近では、家事に係る時間は女性が減少、男性が増加の傾向があります。(平成 28 年総務省社会生活基本調査)

こちらの写真の男性グループ、名前は「パパともりょうりクラブ」。料理を楽しむお父さんたちなのです。子どもの遊び場で出会い、料理を通じて交流するようになりました。この日の献立は「豚丼」。パパたちがさまざまな料理にチャレンジし、できた料理を家族みんなで楽しむのだそうです。目指すはスペインの「ソシエダ」。インタビューの中で新しい家族像の発見も期待できますよ。



とうはま ふみのり  
**東浜 史憲 さん (45)**  
チャーハンが得意です！  
妻が沖縄出身なのでへちまを  
使ったナーベラーを作ってみ  
たいです

さくらい たくま  
**櫻井 琢磨 さん (34)**  
最近作ったのはポークソ  
テーです！いつか天ぷらを  
作りたいです

こうら たけし  
**高良 岳史 さん (39)**  
パスタをよく作ります！  
空き缶でご飯を炊いたりする  
キャンプメニューに挑戦した  
いです

えの まさお  
**江野 正雄 さん (45)**  
イカの肝焼きが作るのも食べる  
のも好きです！最近ポルトガル  
料理に興味を持っています

さかの こういち  
**坂野 晃一 さん (42)**  
ギョウザを山ほど作って家族  
で食べるのが好きです！今  
度は春巻き作りに挑戦した  
いです

## 習志野の“ソシエダ” パパともいょういクラブ

### ■クラブのスタート

**江野**：ある時スペインのサンセバスチャンというところに「ソシエダ」という料理クラブがたくさんあると知りました。サンセバスチャンは世界屈指のグルメな街で、料理を作るのも食べるのも大好きな人が多く暮らしているそうです。「ソシエダ」はかつては、女人禁制で男性だけが集まって料理を作るクラブだったそうです。女性がとても強く、息抜きをする場として男性が集まったと言われており、ユーモアがあっという間と思いましたが、今は女人禁制ではなくなってきているようですが、作るのは男性で、準備ができたから女性も招きみんなで料理とお酒を楽しむそうです。大人っぽくて素敵だなと思い、習志野に「ソシエダ」を作りたい！と思っていました。

男性は地域との結びつきが少ないですね。退職後、誰も知り合いがないということにならないよう、地域につながりを持つための仕組みにもなるのではという思いもありました。

そんな中、子どもを連れて「きらっ子ルームやつ」へ遊びに行くようになりました。子育て中の方が多く利用する施設で、お母さんたちほど多くないですが他のお父さんたちも来ていま

す。とある先生と話をするようになり、先生はここを利用する男性たちを結びつける場を作りたいと思っていたそうです。「何かやりたいことはないの？」と聞かれ「ソシエダ」の話をしたんです。すると「ぜひ、ここに来るお父さんたちとやりませんか？」と言われ、始めてみたのがきっかけとなりました。

始めてみたら私たちはもちろん、お母さんや子どもたち同士も楽しそうにしているのになかなかいいクラブになったなと思っています。

### ■料理をはじめたきっかけ

**江野**：子どもの頃、母の料理やお菓子作りの手伝いをしていたのがきっかけです。できたものをお客さんに出した時「おいしいね」と褒めてもらったことが嬉しかったのを覚えています。

**櫻井**：結婚して夫婦で暮らし始めたのがきっかけです。それまでは料理未経験でした。妻と家事を分担してやることになったのですが、私が魚を焼くと生焼けだったりして料理担当を一度クビになりました(笑)。ですが昨年冬に二人目の子どもが生まれ、妻も忙しくなりいよいよ私も料理担当に繰り上げになりました。レシピサイトを見なが

らどの調味料を入れるかなどを勉強している感じです。

**東浜**：一人暮らしが長かったので料理の経験はありましたが、だんだん面倒くさくなり、あまりやらなくなりました。結婚してからも家族の誕生日などイベントがある時に作る程度ですが、このクラブがあると子どもも喜んでくれるのでまた作っていきたくて思っています。

**高良**：私も一人暮らしが長く、自分の分を作って食べるくらいはできました。あるもので作るというよりは、いい素材を買ってきて作ってしまうので経済的に作れるようにスキルアップしたいです。

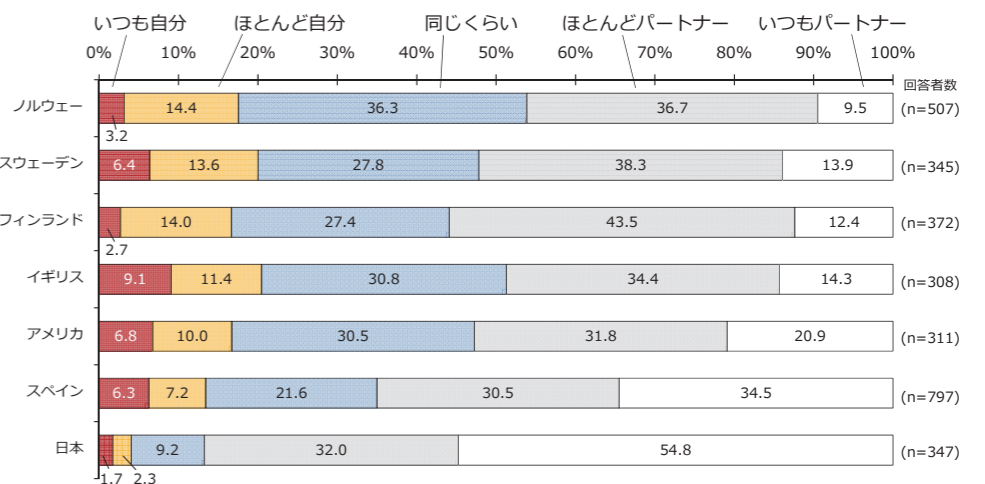
**坂野**：もともと家事が好きでした。一人暮らしも長かったので家事はしていましたね。結婚してからは平日は妻、土日は私というように料理担当を決め、今も継続しています。



### 男性の料理実施度の国際比較

ISSP(※)が行った「家族と性役割の変化に関する調査」(2012年)では、パートナー(事実婚含む)がいる男性に対し、家庭での食事の準備の分担状況についてたずねています。国による文化や料理に対するハードルの違いはありますが、日本の男性の料理実施度は欧米諸国と比較して低いといえます。

※…International Social Survey Programme  
1984年に設立され、社会科学に関連する多様なトピックの調査を国際的に実施している共同研究プログラム。日本ではNHK放送文化研究所が1993年から参加している。



備考：ISSP「Family and Changing Gender Roles IV - ISSP 2012」より作成。  
パートナーがいる男性による回答。「家庭での食事の準備」(Q19-f)についての選択肢 ①いつも自分 ②ほとんど自分 ③同じくらい ④ほとんどパートナー ⑤いつもパートナー ⑥自分とパートナー以外の第三者 ⑦わからないのうち、⑥と⑦は除く。各選択肢の割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない。

### ■メリットいっぱい！男の料理

**高良**：料理は「片付け」まで意識して動けるようになるとスキルが上がるだろうなと思います。

**坂野**：私の家には5歳の娘がいます。料理を夫婦で分担しているので、献立に偏りが無いせいか、私と妻の偏食を受け継ぐことなく、何でも食べてくれて助かっています。また、以前妻が急病で10日間ほど入院したことがありました。仕事もあるので、平日の日中は実家からの応援をもらいましたが、夕食や休日の食事は自力でなんとかできました！

**江野**：世の中にはたくさんの料理があって、こんな作れるはずないと思っていたものが、実際にやってみたらできるじゃん！と思うことがあります。チャレンジするという意味では仕事にもつながってきますね。

**櫻井**：仕事には段取りが重要な部分がありますが、料理も同じで並行していくつかの作業をしますよね。段取り力が鍛えられるという意味では仕事にも役に立っているのかなと思います。

### ■料理は男女の垣根を超える？

**江野**：こんなクリエイティブな面白い活動をしないのはもったいないと思います。料理とは舌にダイレクトに響いて評価してもらえる面白い創作物だと思います。今は「料理は女性がするべき」という概念は崩れる傾向にあるのは確かだと感じます。一方で私たちをはじめとする同世代でも、程度はそれぞれ違うと思いますが「料理は女性

が」と思っている人が多いのではないかなと思います。女性も社会に出てきていますが、社会の中で平等な立場にはまだ立てていないですよ。高良：私は実家が鹿児島なので「九州男児」のもとで育ちましたが、祖父は本当に家事をしなかったですよ。上の世代とは違ってきていますね。



### ■できることから意識を変えて

**江野**：日本の男性の料理にかかる時間が短いことについて、国による文化や環境の違いが大きいのではないかと思います。ヨーロッパなどは家庭第一主義で家庭をととても大切にしていると聞きます。不要な残業はせず、時間になれば家に帰り家族と過ごす時間を大切にしています。それを社会全体が認めています。以前、新聞記事の中で、欧米の人はどの場所でもどのような仕事をするかによって採用されることを知りました。日本は会社に採用されたらどこに配属されるかわからないし、何をすることもわからないという状況ですよ。残業も多くあります。通勤時間も何時間もかけていたり、単身赴任もなかなか断れない。そういう社会を変えることが大事ですよ。

**坂野**：女性と同じくらい家事をすると

いうことは、他のことも同じにならないとできないと思います。育児は男性が「協力する」のではなく、やらなければならないことです。「協力する」とか「手伝う」という感覚ではだめだと思えます。ただ、役割分担して男性が仕事、女性が家事という形やその逆のケースもありだと思えます。

**東浜**：上司が率先して早く帰らないと部下が帰れなくなってしまいます。私は昇進を機に意識的に早く帰るようにしています。仕事の後のプライベートな時間を充実させることで日本の社会も変わっていくのではないかと思いますね。

**高良**：私の職場では、今3人の女性が育休を取っています。仕事を続けたいと思う女性が増えているということは、きっと夫も家事ができる時間が増えることだと思います。いずれ妻にも職場復帰してもらい、私ももっと家庭の事をしたいなと思えます。

**櫻井**：男女共同参画は文化や社会的構造などが大きく影響しているので、すぐに変わっていくことは難しい問題だと思います。でも一方で意識の面では確実に少しずつ変わってきていると思います。少なくともその変化は後退していきたくないのではと思います。



家族みんなでいただきました♪

## 習志野市男女共同参画 推進団体インタビュー

男女共同参画社会の実現に向けて、市と共に協力を活動を行う市民団体である「習志野市男女共同参画推進団体」を紹介します。



今井 祐見子さん 安藤 知佳さん 村山 美佳さん 安田 加奈さん

習志野ママの市民団体

### Donna Popolo (どんなぽぽろ)

設立：2013年 運営スタッフ：5人 代表：安藤 知佳さん

「Donna=女性 Popolo=人」という意味のイタリア語で、初代表廣田さんの「〇〇ちゃんのパパ」というだけでなく、一人の女性として、自分らしく生きるために」をモットーに設立されました。

子育て中のスタッフが、子どもと共に集い、講座やイベントを企画し、開催に向けて活動しています。一緒に学び、イベントを企画・運営したりすることを通して、子育て中に起こりがちなママのモヤモヤ（子育て中で自分のやりたいことが一時的にストップしてしまっているなど）を解消できることもあります。

「わたし時間」を満たして、地域や社会とつながりを持ちながら、参加者ママの自己実現につなげていく団体です。

毎年恒例の秋に開催される「幼稚園情報交換会」は、申込み初日に定員に達するほど好評で、幼稚園選択に役立っています。

一緒にイベント企画・運営をしてくれるスタッフを募集中です。

【問い合わせ】 donpopoentry@gmail.com

ひとりで悩んでいませんか？悩んでいる方は相談を！

### 女性の生き方相談

\*無料 \*要予約 \*秘密厳守 \*市内在住・在勤・在学者対象

- ◎DV（ドメスティック・バイオレンス）のこと
- ◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと
- ◎自分自身の生き方のこと など

＜面接相談＞女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第1金曜 午後1時30分～3時10分・4時～7時40分

第2・4火曜、第3木曜、第3金曜 **1回40分**

午前9時～11時40分・午後0時30分～4時10分

場所：サンロード津田沼6階 市民相談室

申込：習志野市男女共同参画センター（ステップならし）

**047-453-9307** 予約受付 平日 午前8時30分～午後5時  
土曜 午前9時～午後5時

## 編集委員の おすすめ図書

ステップならしの図書コーナーでは、男女共同参画に関する図書の貸し出しや資料が閲覧できます。ひとり5冊、2週間まで借りることができます。どうぞご利用ください。

### LGBTってなんだろう？

からだの性・こころの性・好きになる性

薬師実芳、笹原千奈未、  
古堂達也、小川奈津己 著  
合同出版 発行 2014年



LGBTとはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的少数者の総称です。

この本では50人以上のLGBTの学生の声を紹介され、その声は各人各様のLGBTの人たちへの理解をより深くしてくれます。LGBTへの理解ある大人の存在は、子どもたちの安心につながります。そしてLGBTの人もLGBTでない人もより自分らしくありのままに生きられるでしょう。巻末の付録には《LGBTひと口知識》《授業実践報告》《参考情報(相談窓口)》が載っています。

20人に1人いるといわれるLGBT。子どもたちに寄り添うための本です。

## きらきら★ キーワード

このコーナーでは、男女共同参画に関する今話題のキーワードや数字などを紹介します。

### おとう飯（はん）

「おとう飯」とは、内閣府男女共同参画局による、子育て世代の男性の料理への参画促進を目的とした「おとう飯(はん)始めよう」キャンペーンに伴って作られた新語で、お父さんが作る料理のことです。簡単に手間をかけず、多少見た目が悪くても美味しければそれが「おとう飯」。皆さんも「おとう飯」にチャレンジしてみませんか。きっと家族の笑顔が見られると思います。自分自身にも新しい発見があるかもしれません。

## アンケート 実施中！

今後のより良い紙面づくりのため、記事内容等に関するアンケートを実施しています。アンケートの内容は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。皆さんの率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

【回答方法】  
右記のQRコードから専用メールフォームにアクセスし、各質問項目を回答して「送信」を押してください。

